山口孝璞（やまぐちこうけい）　俳人、詩人。安政四年常陸國新治郡生れ、明治二十五年一月一日歿（一八五七－一八九二）。本名常太郎。別號不言齋、香湖。土浦藩儒五十嵐愛山門下。明治十一年茨城縣師範學校第一回卒業生、卒業證書は第一號。その後獨力で法律を修め、土浦で辯護士開業。また地方自治制實施以前、地元の有志に町村制を講義、更に私塾を開いて地方教育に當つた。一方新體詩の勃興期に際會し、新體詩學研究會を興こして自ら『新體詩格愛國美談』（明治十九年刊）を著はした（直前に刊行せられた初の新體詩手引書、落花居士中川清次郎著『新體詩學必携』と合巻して同年再刻）。のち土浦郷學院を設立し、雑誌『香興新誌』を創刊して地元文化に貢獻。國文學者山口剛はその長男（實際は妹さくとの私生兒で嬰兒のうちに引取りて長男とした）、隨筆家高田保は甥（妹あさのの子）。